

## 自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20320089

研究課題名（和文）新たな学習英文法構築のための基礎的研究

研究課題名（英文）Basic research for the construction of a new grammatical system for Japanese learners of English

## 研究代表者

八木 克正 (YAGI KATSUMASA)

関西学院大学・社会学部・教授

研究者番号：90099630

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：学習英文法のみなおし、フレジオロジー、受験参考書の問題点、英和辞典の問題点

## 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、学習英文法の内容を根本的に見直し、科学的根拠を与えることにある。第一に、好ましくない有害な英語教育の内容を洗い出すこと、第二に、いまの英語の実態を反映していない高等学校の学習内容、受験参考書や英和辞典の内容を、科学的な実態調査をもとに修正を求めることにある。そのために、4年間に達成すべき以下の3つの目標を立てた。

- (1) 学習文法を形成する多様な教材の中身を点検し、問題点を洗い出すこと。
- (2) phraseology の研究を進め、現代英語の実態を明らかにすること。
- (3) (1)(2)の成果をもとにした新たな学習英文法書の枠組みを公開すること。

## 2. 研究の進捗状況

これまで3年間にほぼいずれの点でも成果を、いろいろな形で公表してきた。また、基本的な問題意識と研究の推進方法に変化はないが、根本的な点で、「学習文法の見直し」というよりは、「英語学習内容全体の見直し」の方向に移行してきた。それほど根本的に内容を見直す必要があることがわかってきたのは、phraseology の研究によるものである。また、phraseology の研究とヨーロッパの言語に関する「参照枠」(Common European Framework of Reference)との深い関わりがわかってきたからである。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

初年度の平成20年度は、それまでの、日

本の英語教育の内容や日本の英語研究の歴史に関する研究と、新たな分野としての phraseology の研究成果（これらの成果は、雑誌論文「英語教育のための phraseology (上)(下)」がもとになっている）をもって、ヨーロッパで開催された「ヨーロッパ・フレジオロジー研究会」(EUROPHRAS 2008)に出席し、ヨーロッパの言語学者との交流を主な目的とした。八木は日本の英語教育の歴史とフレーズ研究の歴史を、井上は新しい日本的なフレーズ研究の一端を語り、それぞれに議論を深めることができた。

2年目の平成21年は、ヨーロッパで知己を得た学者と、中国の辞書学者・言語学者や日本の言語研究の代表的人物を招いてシンポジウムと講演会を開催した。この企画によって、日本の英語教育や英語研究のあり方について、新しい方向への光明が見えてきたように思われる。文法事項を基本から難しい順に並べて、それを習得段階とする考え方は根本的に誤っている。コミュニケーション主体に段階性を求めるべきであることを主張するために、大学用教科書 Express yourself in English を開発し、これを使った授業研究を実践し、最終年度の平成23年度で発表する予定である。

また21年度は、日本で「認知言語学」「語用論」「語法研究」「フレジオロジー」を代表する言語学者4名を招き、「生成文法」学者をコメンテーターに、「言語研究と実証性」の講演会を開催し、フレジオロジーの言語研究における位置を確認した。

3年目の平成22年度は、前年度の講演会を基礎に、「日本フレジオロジー研究会」を立ち上げ、八木を代表者、井上を事務局長

とし、日本でのフレイジオロジー研究の拠点とした。9月に第2回例会、3月に2日にわたって第3回例会（国際大会）を開催して、内外の研究者が数多くの報告を行った。

また、井上は、欧米のさまざまな学会で発表を行い phraseology の研究成果を報告した。

#### 4. 今後の研究の推進方策

最終年度の平成23年度は、まとめの時期であるが、フレイジオロジー研究会の第5回、第6回例会をそれぞれ国際的な会議にして、日本の英語教育を真にコミュニケーション主体にし、それに理論的基礎を与える phraseology の研究を推進する。

また、ヨーロッパの参照枠を参考にしながら、日本の英語教育の段階性をコミュニケーション主体にする方向を明らかにし、それと文法教育をどう位置付けるかについて、成果を明らかにしてゆきたい。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計19件）

- ① Ai Inoue, “The functional classification and expansion of similar phraseological units : Interrogatives with *how come ...?* and *why ... ?*,” 言語コミュニケーション文化, Vol.8, No.1, 19-33, 2010, 査読有
- ② 八木克正 「同等比較は最上級の意味を持つか? (上) (下)」『英語教育』11月号/ Vol. 59, No. 9, 10 (69-71)/ 『英語教育』12月号/ Vol. 59, No. 10, 69-71, 2010, 査読有
- ③ Ai Inoue, “A problem of phonetic notation – stress patterns of set phrases including “day”,” English Phonetics (日本英語音声学会), No.13, 125-134, 2009, 査読有.
- ④ Ai Inoue, “Semantic identification of phrase variants in the case of ‘and yet’ and ‘but yet’ based on a phraseological approach,” *The Asian Association for Lexicography CD-ROM Proceeding 2009*, 査読有.
- ⑤ 八木克正, 井上亜依 「英語教育のための phraseology (上) (下)」『英語教育』5月号/ Vol. 57, No. 2 (65-67)// 6月号/ Vol. 57, No. 3, 66-68, 2008, 査読有

〔学会発表〕（計46件）

- ① Ai Inoue, “Functional differentiation between hesitation fillers: The case of *you know what* and *let’s say*,” European Society of Phraseology 2010, 2010年7月1日, University of Granada (スペイン)
- ② Ai Inoue, “The Various Functions of *Here We Go* and *Here We Go Again* – A

Phraseological Approach to Understanding How Spoken Phrases can be Better Incorporated into Dictionaries,” 2010年6月3日, Queen’s University (カナダ)

- ③ Ai Inoue, “Semantic identification of phrase variants in the case of *and yet* and *but yet* based on a phraseological approach,” The Asian Association for Lexicography, 2009年8月22日, Imperial Queen’s Park Hotel (タイ)
- ④ Ai Inoue, “The principle of least effort working in present-day English – From *pirated version* to *pirate version*, and related phenomena,” The Third International Conference on the Linguistic of Contemporary English, 2009年7月14日, University of London (イギリス)
- ⑤ Katsumasa Yagi “How pronunciation has been represented in English-Japanese dictionaries” 日本英語音声学会第13回大会 [招待講演] 2008年11月29日, 中部大学.
- ⑥ Katsumasa Yagi, “English phraseology in Japan,” European Society of Phraseology 2008, 2008年8月18日, University of Helsinki (フィンランド)
- ⑦ Ai Inoue, “You know what? – a set phrase in spoken English corpus,” European Society of Phraseology 2008, 2008年8月18日, University of Helsinki (フィンランド)

〔図書〕（計6件）

- ① 八木克正, R. Hodson, 井上亜依, S. Fuller, *Express yourself in English - A fresh start to your college life* (『英語で自己表現 大学英語のフレッシュスタート』) (大学用教科書) 2008, 110.
- ② Katsumasa Yagi, Takaaki Kanzaki, and Ai Inoue, *Phraseology, Corpus Linguistics and Lexicography Papers from Phraseology 2009 in Japan* revised version, Kwansei Gakuin University Press, 2011, 236.